

○「薪農家組合が農業の現状を確認」

(京都府京田辺市薪第1回地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

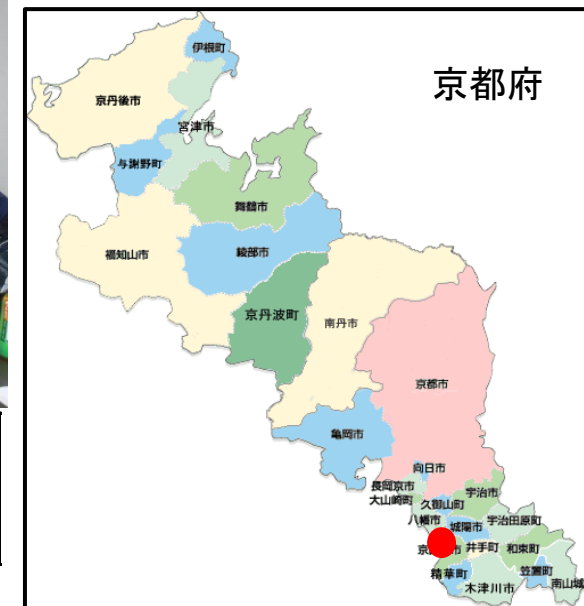
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年12月20日 19:30～22:00
- 場 所: 京田辺市薪公民館
- 出席者: 委員:2人、農家組合員:10人
JA:2人
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している。
○水稻を中心になす、玉露、てん茶、えびいもなどが栽培されているが、高齢化により生産力が低下してきている。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 薪区は、市の中央、西部に位置し、西側に甘南備山が、その北東部に一休寺があり、多くの観光客が訪れる。
- 高齢化に加え、ほ場が小さく、変形、湿気るなど農業がしにくく、遊休農地が増えている。
- 後継者がいない農家が多く、預けたい人が増える一方で、受け手はもう受けられない状況になっている。
- 次の代が家にいても、誰も農業をしない。集落の農地は集落で守らないといけない。
- 岡村や飯岡など他地域では、集落営農組織で対応しているところがある。
- 薪区の農業の現状を共有するとともに、各農家の現状や将来、集落営農、ほ場整備等に対する意向調査の実施、耕作台帳の作成、農家組合の規約の見直しによる体制づくりなどを次回に検討することとなった。

4 活動結果

- | | | |
|-----------|---|----|
| ○ 情報・意見交換 | 3 | 時間 |
| ○ 担い手への集積 | a | 増加 |
| ○ 遊休農地面積 | a | 解消 |
| ○ 新規就農者 | 人 | 支援 |